

2023年度
大学案内



2023年6月発行

国立大学法人 茨城大学

〒310-8512 茨城県水戸市文京2-1-1

TEL 029-228-8111 (代表)

WEB <https://www.ibaraki.ac.jp/>



表紙イラスト/小松崎かざね (2008年 教育学部卒)



多様なステークホルダーとの 対話と実践で、新たな価値を共創

国立大学は今、大きな転換期を迎えています。

気候変動、感染症、経済格差、国際紛争といったグローバルな課題に加えて、日本国内では長引く経済の低迷、災害や貧困による社会的リスクの増大、都市一極集中と地方の過疎化といった課題に直面しています。その解決に寄与する科学技術や教育への社会の期待・要請は増大しており、国立大学に対しては、様々なステークホルダーと連携して新たな価値を共創する経営体という、新たな役割が求められているのです。

そうした中において、私たちは2021年3月、2030年にこうありたいという姿を描いた「イバダイ・ビジョン2030」を、学生たちや教職員による議論の末に策定しました。ここでは、本学が「自律的でレジリエントな地域が基盤となる持続可能な社会の実現」を目指すということを宣言し、教育、研究、地域連携・グローバル化、大学運営というそれぞれの分野に及ぶ計12のアクションを示しています。

私たちは、教育・研究の活動を通じて社会の持続的な発展と一人ひとりのウェルビーイングを追究するとともに、学生、教職員はもちろんのこと、卒業生のみなさんや地域の住民、企業、自治体の方々といった多様なステークホルダーとこのビジョンを共有し、率直な対話と協働での実践を進めていきます。

皆様のご理解、ご協力をぜひお願い申し上げます。

太田寛行

第16代 学長
太田 寛行

1954年東京生まれ。1982年、東北大学大学院農学研究科博士後期課程修了（農学博士）。専門分野は土壌肥科学、微生物生態学で、岡山大学歯学部助教授などを経て、1997年に茨城大学農学部助教授、2002年に茨城大学農学部教授、2010年に茨城大学農学部長・大学院農学研究科長、2014年に茨城大学副学長（大学戦略・IR）を歴任し、2016年4月より茨城大学理事・副学長（教育統括）を務めた。2020年4月より現職。

2030
イバダイ・ビジョン

2024
創立75周年・創基150周年

2017
人文学部を改組し、人文社会科学部設置

2004
国立大学法人化

1967
文理学部を改組し、
人文学部・理学部・教養部設置

1952
農学部設置

1949
茨城大学 設立
文理学部・教育学部・工学部設置

1874
最も古いルーツ学校である
拡充師範学校設立

校章



茨城大学が開学した1949年、学内公募を経て制定。野いばらの葉を図案化し、中に大学の文字を入れた意匠となっている。

茨城大学ロゴマーク



茨城大学の広報活動のシンボルとして2003年に作成。茨城大学のイニシャル「i」をモチーフとし、学問の灯を表現。佐藤晃一デザイン室がデザイン。



2022年度～2027年度 第4期中期目標期間

IBADAI VISION 2030

イバダイ・ビジョン 2030

自律的でレジリエントな地域が基盤となる持続可能な社会の実現のために以下の3つを実行します。



世界の俯瞰的理解と多様な専門分野の知の追究



多様な主体を結びつける結節点としての機能強化



持続可能な環境づくりのための先進的行動の展開

詳細は
こちら



イバダイ
茨城大学の
今がわかる

NEW TOPICS

TOPIC 01

カーボンリサイクルエネルギー 研究センターができました

気候変動から地球環境を守るためには、二酸化炭素(CO₂)の排出量を実質ゼロにする「脱炭素社会」を実現しなければなりません。世界中で再生可能エネルギーや電気自動車の普及などが進められている一方、資源に乏しい日本での「脱炭素」の実現のためには新たな発想や技術も必要です。

そこで茨城大学が力を入れているのが「カーボンリサイクル」の技術開発です。大気中のCO₂を直接「回収」し、そのCO₂も資源にして新しい燃料を「合成」というもので、茨城大学ではそれらの燃料の安全な「利用」まで見通した一気通貫の実験・研究体制を整備。2023年4月には日立キャンパスを拠点とする「カーボンリサイクルエネルギー研究センター」をオープンしました。

多様な専門分野の所属教員10名を中心にオープンサイエンス体制で研究・開発を進め、日立から世界へ新しい技術を発信していきます。

CO₂を回収して資源として再利用 目指せ!脱炭素社会



ウェブサイトはこちら

TOPIC 02

新たな学士課程 「地域未来共創学環(仮称)」

2024年4月開設予定!

ビジネスとデータサイエンスを中心とした分野・文理横断的な学びや、企業や自治体での「コープ実習」(長期有給実習)などを特徴とする新たな学士課程の組織「地域未来共創学環(仮称)」を、2024年4月に開設予定です。入学定員は40名で、卒業生には学士(学術)の学位が授与されます。

「地域と創り、地域と育てる」がキーワード。連係3学部(人文社会科学部・工学部・農学部)の科目から幅広く履修できるカリキュラムやコープ実習を通じて、地域の未来に求められるソーシャル・アントレプレナーシップ×ビジネス×データサイエンスという素養の習得を図り、地域課題の解決や新たな価値創出に挑戦する実践的な人材を養成します。

※設置計画は予定であり、変更が生じる可能性があります。
名称は仮称で、学位、入学定員、開設時期は未定です。



ウェブサイトはこちら

TOPIC 03

茨城大学型の教育マネジメントの 特色を紹介する本、好評発売中!

『現場が動きだす大学教育の マネジメントとは』

茨城大学では、ディプロマ・ポリシーで定めた「茨城大学型基盤学力」の達成状況等を、学生たちの在学中や卒業後にアンケート調査によって確認しています。そして、それらのデータや授業アンケートの結果などをもとに、①教員個人、②学科やコース等、③学部、④大学という4つの階層で授業やカリキュラムを点検し、教育改善を行っています。この独自の「教育の質保証」の取り組みの結果、学修成果が年々上昇する傾向が見られるようになりました。

こうした茨城大学型の教育マネジメントの特徴や歴史について分かりやすくまとめた本が、2023年4月に発売されました。「学生の自己評価こそが質保証のカギ」「学修データを教員の査定に使うな」「データは弱く活用すべし」など、高等教育機関はもちろん、高等学校などの中等教育機関の教育マネジメントにもヒントになるようなノウハウやエピソードが詰まっています!



意外?
納得!!

茨大のナンバー1 & オンリー1

No.1 農学部の黒毛和牛、県内市場で最高額評価!

農学部附属国際フィールド農学センターで育った黒毛和牛の子牛が、2022年12月に行われた茨城県の家畜市場の雌牛の部で、その日の最高落札額を獲得! 「優良出荷者賞」を受賞しました。教職員の長年の努力で辿りついた快挙。茨大農学部の牛への注目が高まっています!



Only1 日本の地名由来の唯一の地質年代名「チバニアン」

77万4000年前~12万9000年前を指す「チバニアン」は、日本の地名(千葉)に由来する唯一の地質年代名です。その名称の決定に至る申請活動で代表を務めたのが理工学研究科(理学科)の岡田誠教授(理学部長)。研究室の歴代の学生たちの研究成果も大いに役立ちました。

Only1 北浦を臨む日本初・唯一の臨湖教育関係共同利用拠点

潮来市の北浦沿いにある水圏環境フィールドステーションは、淡水域、汽水域、沿岸域および水に関わる地域の環境科学の研究教育を行う全学共同利用施設。文部科学省により臨湖実験所として全国で初めて教育関係共同利用拠点に認定され、現在も唯一の拠点です。毎年全国から学生たちが集まって調査活動などを行っています。



太田寛行・高田敏行=編
「茨城大学コミットメント」プロジェクト=著

技術評論社

学部

全学のディプロマ・ポリシーに応じて各学部とも目標を掲げ、コースやカリキュラムを充実させています。

人文社会科学部

水戸キャンパス

主専攻分野の「メジャー」に加えて異分野の「サブメジャー」（副専攻）も選ぶ制度により、社会の課題を把握し、解決する高い能力と俯瞰的な視野を育てます。

現代社会学科 メディア文化メジャー / 国際・地域共創メジャー
法律経済学科 法学メジャー / 経済学・経営学メジャー
人間文化学科 文芸・思想メジャー / 歴史・考古学メジャー / 心理・人間科学メジャー



教育学部

水戸キャンパス

複雑化する教育問題に対処するため、専門的知識と広い視野を伴う実践的指導力をもった教員を育成。地域と連携し、教育実習以外にも学校現場で学ぶ機会を充実させています。

学校教育教員養成課程 教育実践科学コース / 教科教育コース / 特別支援教育コース
養護教諭養成課程



理学部

水戸キャンパス

従来の学科の枠組みを取り払った「1学科6コース制」により、社会のさまざまな分野で活躍できる、高い専門知識と問題解決能力を持った理学のスペシャリストを輩出しています。

理学科 数学・情報数理コース / 物理学コース / 化学コース / 生物科学コース / 地球環境科学コース / 学際理学コース



工学部

日立キャンパス(1年次(フレックスコースを除く)は水戸キャンパス)

AIやビッグデータなどの情報教育を重視し、大学院を含めた6年一貫の教育を念頭に、新たな社会の基盤づくりを担う高度技術者・研究者を育てます。

機械システム工学科 **電気電子システム工学科**
物質科学工学科 **情報工学科** **都市システム工学科**
機械システム工学科(フレックスコース)



農学部

阿見キャンパス(1年次は水戸キャンパス)

食・農業の国際化・高度化が急速に進む中、世界と地域で活躍できる実務型農学系人材の育成をめざし、生産・加工の国際認証などにも対応した新たな農学教育に取り組んでいます。

食生命科学科 国際食産業科学コース / バイオサイエンスコース
地域総合農学科 農業科学コース / 地域共生コース



大学院・専攻科

社会をリードする高度な専門職業人や研究者を育てます。

人文社会科学研究科

水戸キャンパス

修士課程 **人文科学専攻** **社会科学専攻**

2021年度に改組し、人文科学専攻に公認心理師コースを新設。学部からの6年一貫教育で公認心理師の受験資格取得が可能になりました。



教育学研究科

水戸キャンパス

専門職学位課程 **教育実践高度化専攻**

2021年度に改組し、現代的な教育課題に実践的に対応できる力を育てることを目的として、6コース制の教職大学院に一本化しました。



理工学研究科

水戸キャンパス・日立キャンパス・東海サテライトキャンパス

博士前期課程 **量子線科学専攻** **理学専攻** **機械システム工学専攻**
電気電子システム工学専攻 **情報工学専攻** **都市システム工学専攻**

博士後期課程 **量子線科学専攻** **複雑系システム科学専攻** **社会インフラシステム科学専攻**

量子線科学専攻はJ-PARCなどの機関と連携し、全国的にもユニークな量子線の科学・技術の総合的教育をおこなっています。



農学研究科

阿見キャンパス

修士課程 **農学専攻**

英語開講の科目だけで修了できるアジア展開農学コースには、アジア各国から留学生が集まっています。



連合農学研究科

阿見キャンパス

生物生産科学専攻 **応用生命科学専攻** **環境資源共生科学専攻** **農業環境工学専攻**
農林共生社会科学専攻

茨城大学、宇都宮大学、東京農工大学の農学研究科修士課程が連合して、博士課程(3年)の教育・研究にあたる研究科です。

特別支援教育特別専攻科

水戸キャンパス

知的障害教育専攻 **特別支援学校教諭一種免許状取得コース**

現職教員や教員免許保有者などを対象として、知的障害児の教育を中心とした特別支援教育を担当できる教員を養成しています。

＞ 5つの茨城大学型基盤学力と教育の質保証の独自の取り組み

茨城大学では、学士課程のディプロマ・ポリシー（DP：学位授与の方針）で、すべての学部学生が卒業時に身に付けておくべき5つの要素を「**茨城大学型基盤学力**」として定め、重視しています。これらの5つの要素はセレモニーやシラバスなどさまざまな形で示されるとともに、学生たちは毎年次、卒業時、卒業3年後にこれらの要素の達成度に関する自己評価をおこないます。

学生の自己評価に加えて、就職先の企業等にもアンケートをおこない、これらのデータを学修成果として可視化・共有しながら、教員個人、学科・コース等、学部、全学というそれぞれの階層での教育評価と改善の取り組みをおこなっています。その結果、学生の卒業時のDPの達成度（平均値）に上昇傾向が見られるようになりました。恒常的な教育改善と学生自身の成長の実感につながる独自の**教育の質保証**の取り組みは、学外からも高い評価を得ている本学の強みのひとつです。

茨城大学型基盤学力

世界への俯瞰的理解
専門分野の学力
課題解決能力・コミュニケーション力
社会人としての姿勢
地域活性化志向

Check! 茨城大学コミットメント — 入学式の日に交わす教育の約束

茨城大学では、ディプロマ・ポリシーで定めた5つの基盤学力と教育の仕組みを理解してもらいイベントとして、入学式の日に「コミットメント・セレモニー」をおこなっています。「茨城大学コミットメント」は、学生・教職員・地域のパートナーシップによって必要な力を身に付けるための教育の約束です。新入生には「コミットメント・ブック」が配られ、式場の全員で記念撮影をして、新しいキャンパスライフへと向かいます。



WEB <https://www.ibaraki.ac.jp/commit/>



Twitter @IBADAI_commit



＞ 課外活動・学生生活の支援で多様な学生が安心して学べるキャンパスを

茨城大学では、正課のカリキュラムに加えて、学生たちの課外活動や生活のサポートも、高いレベルの教育を実現する上で不可欠のものと捉えています。

課外活動の支援については、学部3年次の夏季休業期間から第3クォーター（11月まで）を、原則的に必修科目を開講せず、海外研修、インターンシップ、サービスマーケティング、発展学修といった学内外での主体的な学修活動を奨励する「**iOP (internship Off-campus Program) クォーター**」としています。こうしたユニークなカリキュラム編成によって、一人ひとりの活動を積極的にサポートしています。

生活の支援については、経済的な事情によって学修を諦めるようなことがないよう、茨城大学基金を活用した入学金・授業料免除や奨学金による経済支援のほか、担任制やアンケートシステムを用いたきめ細やかな状況把握とサポートにも取り組んでいます。留学生や特別な支援を必要とする学生についても、学生同士のピアサポートなどの仕組みで支援し、多様な学生たちが安心して学び合えるキャンパスづくりを目指しています。

＞ 附属学校園・高大接続・リカレント教育—生涯にわたる教育の共創の場

幼稚園・小学校・中学校・特別支援学校という教育学部の各附属学校園の活動、高等学校の関係者や教育委員会との対話・連携による高大接続、社会人向けのリカレント教育プログラムといったそれぞれの取り組みを通じて、地域市民の生涯にわたる学びの場を提供しています。

これからの地域社会でどのような教育を展望するのか、その本質的な課題に迫った率直な対話を地域のさまざまなステークホルダーと重ねながら、各教育段階と連続する大学教育としての質の保証と広がりを追究し、地域の教育の共創の場としての大学の役割を果たしていきます。

＞ 気候変動対策と脱炭素エネルギー実現のための力強い研究体制の構築

グローバル規模の喫緊の課題である気候変動の問題について、茨城大学は2006年に専門の研究機関（現在の**地球・地域環境共創機構（GLEC）**）を立ち上げ、教員の所属組織や専門分野の垣根を超えた研究や**サステイナビリティ学**の教育に取り組んできました。その実績をもとに、ベトナムの日越大学を通じて気候変動・開発分野の現地の人材育成に関わっているほか、2019年には大学内に茨城県地域気候変動適応センターを開設するなど、地球・地域の両方の規模で気候変動対策に貢献しています。また、温室効果ガスの排出の削減についても、二酸化炭素の「回収」、新たなカーボンニュートラル燃料の「合成」、それらの高効率な「利用」のサイクルを実現するため、それらのプロセスを丸ごと実験・検証する**カーボンリサイクルエネルギー研究センター**を2023年4月に開設しました。

これらの取り組みを通じて、カーボンニュートラル社会の実現やSDGs達成を力強く推進します。

＞ 地域の強みを最大限に活かしたイノベーション創出と連携

茨城県は国内有数の工業・農業の集積地であり、科学技術においても各種施設を有する豊かな県です。茨城大学はこれらの地域のメリットを最大限活かし、ステークホルダーと連携しながらイノベーション創出を図ります。

茨城県内には、J-PARC（東海村）やKEK（つくば市）といった大型の量子加速器施設があります。茨城大学は大学院において日本で唯一の「**量子線科学専攻**」を有しており、量子ビームを活用した材料物質や医薬品の開発に貢献する研究と、研究者・技術者の育成に取り組んでいます。

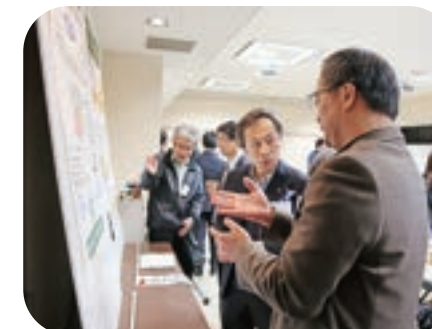
また、2020年度及び2021年度には、大学と同一都道府県内の企業・自治体との共同・受託研究実施件数において、本学が東京都を除く関東地方で第1位となるなど、地元企業・自治体との連携も強みです。



＞ 研究推進体制を強化 研究環境の改善をめざす

研究・産学官連携機構（iRIC）では、研究支援の専門職（URA、コーディネーター）を配置し、研究戦略及び知的財産運用方針の策定や外部資金獲得の支援、研究コンプライアンスに関する研修の企画などをおこなっています。また、他機関と協力して組織対組織の産学連携に取り組むなど、戦略的な研究推進体制を強化しています。

教員の研究時間の確保や多様な研究を通じた社会的インパクトの創出、それによるさらなる外部資金の獲得は、日本の大学に共通する課題です。それらの課題解決のため、本学では学内における業務効率化、安心して働ける職場づくりなどの研究環境の整備や研究マネジメントをととして、研究インパクトの向上に取り組んでいます。



Check! 研究・産学官連携機構（iRIC）

茨城大学の研究推進を司る組織として2018年に開設。産学連携部門、学術研究部門、研究コンプライアンス部門、先導研究創生部門の4つの部門からなり、研究支援や産学官連携のコーディネートに取り組んでいます。教員との共同研究については、機構のWEBサイトからお気軽にお問い合わせください。

TEL 029-228-8835

WEB <https://www.iriic.ibaraki.ac.jp>



iRIC

地域連携・グローバル

多様な教育・研究資源を社会にひらき、地域創生への役割を果たす

茨城大学は教育・研究の多様なリソースを社会にひらき、人口減少や気候変動・自然災害などの深刻な課題の解決へとつなぐことで、持続可能な地域づくりに貢献します。

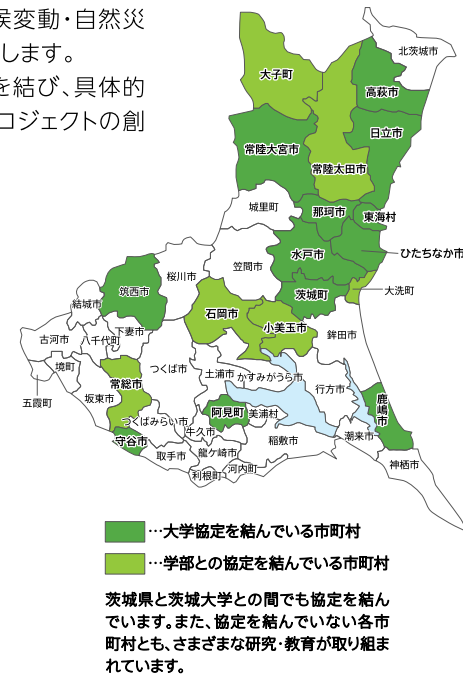
自治体、企業、各種団体といった地域のステークホルダーとネットワークを結び、具体的な取り組みの基盤とするとともに、地域活性化志向をもつ若者の育成やプロジェクトの創出・支援を通じて、地域の知の拠点としての責任を果たしていきます。

Check! 社会連携センター

茨城大学と社会を結ぶ窓口として2014年に本格稼働。地域のプラットフォームの役割を果たすため、相談・コーディネート事業のほか、さまざまな自主事業も展開しています。大学との協働に関心のある方はいつでもご相談ください。



TEL 029-228-8585
E-mail renkei@ml.ibaraki.ac.jp
WEB <https://www.scc.ibaraki.ac.jp/>



世界に広がるネットワーク型の国際拠点を構築 グローバルな学びをサポート

社会のグローバル化が急速に進む中、大学教育においても海外での学びの機会の拡充や高いコミュニケーション力の育成が不可欠になっています。また、茨城大学が国際的な強みとする研究・教育の取り組みも積極的に世界へ発信し、多様な研究者などとの交流につなげていくことが肝要です。

茨城大学では、海外24の国・地域に位置する76機関と交流協定を締結して、ネットワーク型の国際拠点を構築し、交換留学や共同研究を促進することで、グローバル水準の取り組みを推進していきます。学生の国際交流にあたっては、オンラインも含めた機会の創出、留学する学生の経済面の支援などを積極的におこなっています。



Check! グローバル教育センター

グローバル教育センターでは、茨城大学の留学生の教育・生活支援と、海外留学を希望する学生に対する情報提供・助言をおこなっています。ひらかれたセンターとして、交流イベントや相談事業も積極的に展開しています。留学や国際交流に興味がある学生はいつでもお越しください。

TEL 029-228-8593
WEB <http://cge.lae.ibaraki.ac.jp/>



大学運営

ステークホルダーと連携した自律的・持続的な運営のための取り組み

国から国立大学へ措置される運営費交付金等の予算のうち教育・研究活動の基盤となる基幹経費の額は、2004年の国立大学法人化以降大きく減少しており、国立大学として自立した財政基盤の確保は喫緊の課題です。第4期中期目標期間(2022~2027年度)において、国立大学には「様々なステークホルダーと連携して新たな価値を共創する経営体」という新たな役割が求められています。

本学では、自律的・持続的な大学運営を進めるため、目標・計画等の達成度について、データに基づいた可視化・モニタリングを恒常的に実施して業務の改善につなげる内部質保証の体制を強化しています。

あわせて、幅広い取り組みに対する多様なステークホルダーの理解・協力を得るため、情報公開と大学ブランディングを一体的に進める戦略的なコミュニケーションを展開しています。

新設した情報戦略機構を司令塔としてスマートユニバーシティ実現を目指す

茨城大学では、大学構内におけるWi-Fiの整備、統一的なオンラインツールの導入、すべての学生のBYOD(Bring Your Own Device)実現、きめ細やかなサポートとFD・SD(研修)の企画・実施といった体制により、新型コロナウイルス感染症に対応した遠隔授業・遠隔会議への移行をスムーズに進めることができました。

2022年には本学のデジタル化を戦略的に進める機関として情報戦略機構を新設。大学のDX(デジタル・トランスフォーメーション)、データ活用、情報セキュリティの強化を組織的に進め、「スマートユニバーシティ」の実現を力強く進めています。

Check! 情報戦略機構

2022年4月、従来のIT基盤センターを発展させた形で、茨城大学の情報戦略・DXを統合的に担う組織として発足しました。「データ戦略」「デジタル改革推進」「情報セキュリティ」「情報システムマネジメント」の4つの部門からなります。教育、研究、業務に取り組む教職員の「マインド・トランスフォーメーション」を重視し、学外からゲストを招いての講演会の開催なども積極的におこなっています。



教職員が意欲を持って働き、活躍・成長できる組織に

仕事と育児の両立、キャリア形成の支援を組織的にを行い、教職員がワーク・ライフ・バランスを充実させ、モチベーションを維持しながらそれぞれが活躍・成長できる組織づくりを進めています。茨城大学のダイバーシティ推進の取り組みは、2019年度に「茨城県女性リーダー登用先進企業表彰」で優良賞を、2020年度には水戸市の「男女平等参画社会づくり功労賞」(事業所の部)を受賞しました。

また、2022年12月に「茨城大学における多様な性的指向と性自認等を尊重する基本理念・基本方針と対応ガイドライン」を策定し、本学のすべての構成員がそれぞれの多様性と権利を認識し、偏見や差別、ハラスメントをなくし、安心して働き、過ごすことのできる環境づくりに努めています。



CAMPUS MAP

MITO CAMPUS

水戸キャンパス

人文社会科学部 / 教育学部 / 理学部

茨城県水戸市文京2-1-1
029-228-8111 (代)

JR水戸駅(北口)バスターミナル7番乗り場から
茨城交通バス「茨大行(栄町経由)」乗車 → 「茨大前」で下車(約25分)

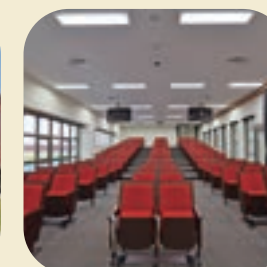
常磐自動車道水戸ICより国道50号線を水戸駅方面へ →
新原三差路を県道171号線へ → 袴塚1丁目交差点を左折 →
袴塚3丁目交差点を右折 → 1本目の道を左折すると右手に正門が見えます。
ETCをご利用の方は、水戸北スマートICが便利です。
※お車の方は守衛所で入場許可証を受け取り、駐車場の案内を受けてください。



WEB <http://www.lib.ibaraki.ac.jp/>
TEL 029-228-8076 (本館サービスグループ)

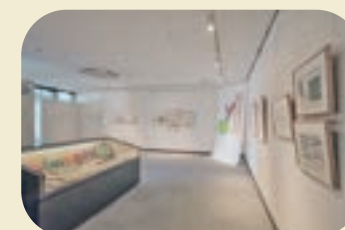
【開館時間】

開講期間中	平日	8:30~20:45
	土・日	11:00~19:00
(春・夏・冬) 休講期間	平日	8:30~17:00
	土・日	休館
祝日 年末年始(12/29~1/3) 全学一斉休業日		休館



① 図書館(本館)・ライブラリーホール(図書館3階)

図書館の学術資料をご利用になる方は、カウンターで身分証明書を提示し入館手続きをお願いいたします。ご登録いただければ館外貸出も可能です。地域の方々と学生がともに学ぶ無料の講座「土曜アカデミー」も開講しています。



① 図書館展示室(図書館1階)

年間を通して、本学所蔵資料の企画展示や、教員・学生の研究成果発表、作品展示などを行っています。開館時間は展示により異なります。入場無料。



① インフォメーションラウンジ(図書館1階)

大学案内等の各種パンフレットや広報誌等を配置。「チバニアン」に関する展示コーナーもあり、どなたでもご覧いただけます。

開室時間 平日9:00~17:00



① サザコーヒー

茨城大学ライブラリーカフェ店(図書館1階)
喫茶や軽食を提供しています。テイクアウトも可。
営業時間 平日10:00~17:00
※いずれも平日のみ営業。土日祝日休業



② 大学生協食堂・購買・書籍等(福利センター1階・2階)

営業時間 [食堂] 1階 11:00~13:30、17:30~19:30、2階 11:30~13:00
[購買] コンビニショップ 9:40~17:00
ササビショップ 11:00~15:00
[書籍・住まいアルバイトセンター] 10:00~16:00
※いずれも平日のみ営業。土日祝日休業



③ SHIEN BAKERY (茨苑会館1階)

2023年4月にオープン。
焼き立てのパンを提供しています。
営業時間 平日9:40~14:30



④ 地球環境資料展示室(理学部G棟1階)

理学部が収集した化石や鉱石などの資料を展示しています。
開室時間 平日8:40~18:00、入場無料



⑤ 社会連携センター

地域・社会との連携の窓口です。



⑥ 地球・地域環境共創機構(GLEC)/放送大学茨城学習センター

(いずれも環境リサーチラボラトリー棟)



☎ 公衆電話

🚑 AED

🚲 駐輪場

🚲 バイク駐輪場

🍴 カフェ・食堂

🏧 銀行ATM

👶 ベビーシート

CAMPUS MAP

HITACHI CAMPUS | 日立キャンパス

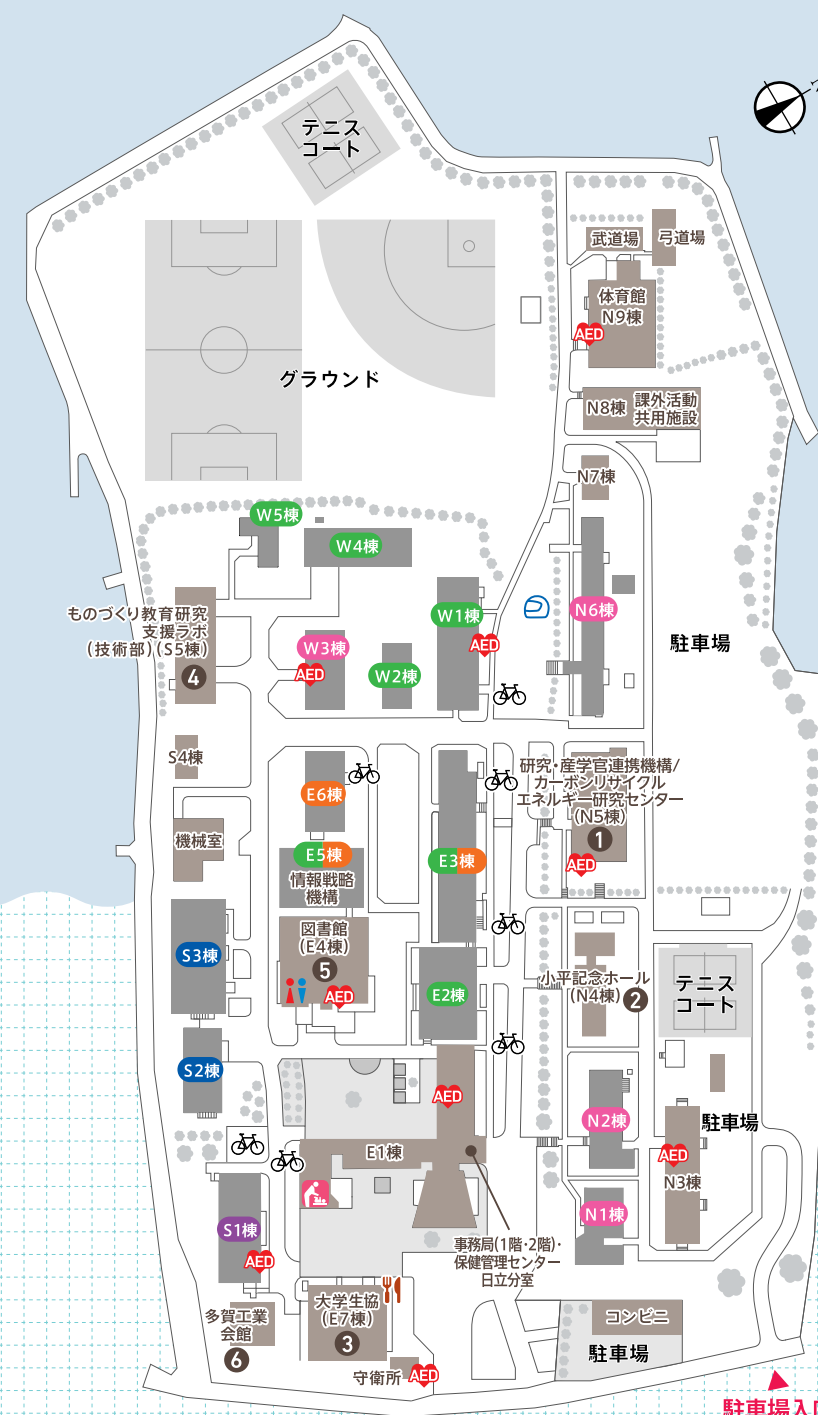
工学部



茨城県日立市中成沢町4-12-1
0294-38-5004 (代)

JR日立駅(中央口)から茨城交通バス、中央線経由「平和台霊園行」または「多賀駅行」乗車 → 「茨大前」で下車(約10分)
JR常陸多賀駅から茨城交通バス、中央線経由「日立駅行4」乗車 → 「茨大前」で下車(約10分)

常磐自動車道日立中央ICのご利用が便利です。
国道6号線を水戸方面へ進むと左折の案内表示板があります。
※正門の守衛所でお入場カードを受け取り、駐車場をご利用ください。



- 機械システム工学科: W1, W2, W4, W5, E2, E3, E5
- 電気電子システム工学科: E3, E5, E6
- 物質科学工学科: N1, N2, N6, W3
- 情報工学科: S1
- 都市システム工学科: S2, S3

- AED AED
- 駐輪場 駐輪場
- バイク駐輪場 バイク駐輪場
- カフェ・食堂 カフェ・食堂
- ベビーシート ベビーシート



① 研究・産学官連携機構/カーボンリサイクルエネルギー研究センター(N5棟)
技術相談や研究内容に関するご質問など、お気軽にお問い合わせください。



③ 大学生協(E7棟)
【営業時間】【購買書籍】10:00~17:30
【食堂】11:30~14:00
※いずれも平日のみ営業。土日祝日休業
TEL 【購買書籍】0294-37-4092
【食堂】0294-37-4231



⑤ 図書館(工学部分館)
図書館の学術資料をご利用になる方は、カウンターで身分証明書を提示し入館手続きをお願いいたします。ご登録いただければ館外貸出も可能です。
WEB <http://www.lib.ibaraki.ac.jp/>
TEL 0294-38-5012(工学部分館サービスグループ)

開講期間中	平日	8:30~21:45
	土・日	12:00~17:00
(春・夏・冬) 休講期間	平日	8:30~17:00
	土・日	休館
祝日 年末年始(12/29~1/3) 全学一斉休業日		休館



⑥ 多賀工業会館
茨城大学工学部、茨城大学大学院理工学研究科(工学系)ならびに前身組織である多賀高等工業学校等の同窓会「多賀工業会」の事務局です。談話スペースも用意しています。



② 小平記念ホール(N4棟)
日立製作所より資金提供を受けて1953(昭和28)年に建立。ホールの名前は日立製作所創業者の小平浪平氏に由来しています。現在は学内・学外を問わず講演会や式典などの会場として活用されています。



④ ものづくり教育研究支援ラボ(S5棟)
学生や教員の各種製作などの相談を受け付けているほか、地域の子どもたち向けのワークショップなども開催しています。

AMI CAMPUS

阿見キャンパス

農学部



茨城県稲敷郡阿見町中央3-21-1
029-887-1261 (代)

JR土浦駅(西口)バスターミナル1番乗り場から
関東鉄道バス「阿見中央公民館行」乗車→「茨大前」で下車(約20分)

常磐自動車道桜土浦ICから阿見・土浦方面へ(約15分)
※事務棟前に来客用駐車場を用意しています。



① 附属国際フィールド農学センター

圃場を活用した総合的なフィールド農学の教育・研究拠点。
2020年8月には国際認証ASIAGAPを取得。研究管理棟では
季節の野菜や果物の販売も。



③ フードイノベーション棟

食の安全に関する国際標準HACCP(ハサップ)の教育や食の
6次産業化に係る教育研究の強化を目的に、2019年に新設。
教員の研究室、講義室、実験室、インキュベーションラボ、ラー
ニングコモンズなどを備えています。



② 図書館(農学部分館)

図書館の学術資料をご利用になる方は、カウンターで身分証
明書を提示し入館手続きをお願いいたします。ご登録いただ
ければ館外貸出も可能です。

WEB <http://www.lib.ibaraki.ac.jp/>
TEL 029-888-8531 (農学部分館サービスグループ)

【開館時間】

開講期間中	平日	8:30~20:45
	土・日	11:00~19:00
(春・夏・冬) 休講期間	平日	8:30~17:00
	土・日	休館
祝日 年末年始(12/29~1/3) 全学一斉休業日		休館

④ こぶし会館



1階に大学生協のショップと食堂
を備え、近隣の皆様にもご利用
いただいています。2階の研究室
では市民向けのイベントなども
開催。

【営業時間】10:00~15:00
【食堂】11:30~13:00
※いずれも平日のみ営業。土日祝日休業
TEL 029-887-4312 (大学生協)

⑥ 同窓会館(霞光荘)



調理スペースがあり、懇親や各種
会議にも利用されています。本学
卒業生・修了生も利用可能です。

TEL 029-888-8510
(農学部会計・管理グループ)

⑤ 遺伝子実験施設



組換えDNA実験などの教育・研
究のほか、無料の各種実験講座
なども開催しています。

⑦ 国際交流会館



農学部では国際交流が活発に行
われています。外国人留学生と外
国人研究者用の宿泊室と談話室
などを完備しています。



AED AED

駐輪場

カフェ・食堂



Ibaraki Map

IBARAKI UNIVERSITY | 茨城大学

茨城大学は、県庁所在地である水戸市をはじめ、太平洋を望む自然豊かな中核都市である日立市、多くの研究機関が集う筑波研究学園都市に隣接する阿見町にキャンパスがあります。



茨城空港から全国へ



つながるアクセス

札幌
神戸
福岡
那覇

- 茨城空港 ↔ 水戸駅
バス利用 40分
- 茨城空港 ↔ 石岡駅
バス利用 35分

茨城県内の茨城大学関連施設のご案内

五浦美術文化研究所

岡倉天心の思想をいまに



岡倉天心は北茨城五浦の地を気に入り、1906年に日本美術院を移し、横山大観、菱田春草、下村観山、木村武山らとともにこの地で過ごしました。研究所は天心遺跡の管理・公開を行うとともに、その功績をたたえ日本の近代美術や内外の文化・歴史研究に取り組んでいます。敷地内の天心記念館では、平櫛田中作の「五浦釣人」など貴重な作品を展示しています。

【アクセス】JR常磐線・大津港駅から徒歩約10分／【入場料】400円(中学生まで無料・団体割引等あり)／【休館日】原則月曜日(詳細はWEBサイトをご覧ください)／【住所】茨城県北茨城市大津町五浦727-2／【TEL】0293-46-0766／【WEB】<https://rokkakudo.izura.ibaraki.ac.jp/>

理学部附属 宇宙科学教育研究センター

宇宙の成り立ちを探る巨大アンテナ



日立市と高萩市にまたがった小高い公園内にある、国立天文台の口径32mの宇宙電波望遠鏡2基を使って、宇宙からやってくる電波をとらえています。

【アクセス】JR常磐線・高萩駅からバス利用「明秀学園高萩キャンパス前」から徒歩約10分／【入場料】(宇宙電波館)無料(平日10時～12時、13時～14時45分)／【休館日】土・日曜日、お盆休み、年末年始／【住所】茨城県高萩市石滝627-1／【TEL】0293-24-9516／【WEB】<http://www.asec.ibaraki.ac.jp/>

地球・地域環境共創機構 水圏環境フィールドステーション

全国随一の臨湖教育施設



北浦を臨む場所に建つ当施設は、全国随一の臨湖共同教育施設としてさまざまな地域の学生などの利用を受け入れ、生態系の観察や水質調査を体験できるプログラムを提供しています。

【アクセス】成田線・延方駅から車で約10分、大洗鹿島線・鹿島神宮駅から徒歩約17分／【住所】茨城県潮来市大生1375／【TEL】0299-95-9650／【WEB】<http://www.cwes.ibaraki.ac.jp/>

東海サテライトキャンパス



世界的な研究施設 J-PARC(大強度陽子加速器施設)に隣接する茨城大学フロンティア応用原子科学研究センターを核とした、新たな教育・研究拠点として2017年に開設。大学院理工学研究科量子線科学専攻の教育・研究活動を展開しています。

【住所】茨城県那珂郡東海村白方162-1 AYA'S LABORATORY 量子ビーム研究センター内／【TEL】029-287-7871／【WEB】<http://www.fas.ibaraki.ac.jp/>

水戸駅南サテライト



JR水戸駅南口から徒歩5分。春は桜が満開となる桜川の景色を臨みながら、学修や仕事、イベントなどに柔軟に活用できる場として2020年に開設しました。本学工学部都市システム工学科の研究室の教員・学生がデザインを監修。茨城県産木材をふんだんに使った心地よい空間です。

【住所】茨城県水戸市桜川2丁目2-35 茨城県産業会館2階／【TEL】029-297-3151

教育学部附属学校園

附属学校園では、教育学部や教職大学院の教員養成に協力するとともに、教育に関する理論・実践の研究や働き方改革の取り組みの成果を広く発信し、地域の教育力向上に貢献しています。



附属幼稚園

茨城県水戸市三の丸2-6-8
【TEL】029-224-3708
【WEB】<http://kindcms.admb.ibaraki.ac.jp/>



附属小学校

茨城県水戸市三の丸2-6-8
【TEL】029-221-2043
【WEB】<http://www.esch.ibaraki.ac.jp/>



附属中学校

茨城県水戸市文京1-3-32
【TEL】029-221-3379
【WEB】<http://www.jsch.ibaraki.ac.jp/>



附属特別支援学校

茨城県ひたちなか市津田1955
【TEL】029-274-6711
【WEB】<http://www.yougo.ibaraki.ac.jp/>

茨城大学 の1 年間

CAMPUS LIFE



お問い合わせ先

施設名	お問い合わせ	住所
事務局	029-228-8111 (代表)	〒310-8512 茨城県水戸市文京2-1-1
全学教育機構	029-228-8489	
情報戦略機構	029-228-8750	
アドミッションセンター	029-228-8574 (オープンキャンパス) 029-228-8064 (入試関係)	
保健管理センター	029-228-8061	
全学教職センター	029-228-8327	〒316-8511 茨城県日立市中成沢町4-12-1
研究設備共用センター	029-228-8092	
地球・地域環境共創機構	029-228-8787	
社会連携センター	029-228-8585	
研究・産学官連携機構	0294-38-5005	
カーボンリサイクルエネルギー研究センター	029-228-8417	〒300-0393 茨城県稲敷郡阿見町中央3-21-1
遺伝子実験施設	029-888-8743	
地球・地域環境共創機構 水圏環境フィールドステーション	0299-66-6886	〒311-2402 茨城県潮来市大生1375
フロンティア応用原子科学研究センター	029-287-7871	〒319-1106 茨城県那珂郡東海村白方162-1 (AYA'S LABORATORY量子ビーム研究センター内)
五浦美術文化研究所	0293-46-0766	〒319-1703 茨城県北茨城市大津町五浦727-2
水戸駅南サテライト	029-297-3151	〒310-0801 茨城県水戸市桜川2-2-35 茨城県産業会館2階
図書館本館	029-228-8076	〒310-8512 茨城県水戸市文京2-1-1
図書館工学部分館	0294-38-5012	〒316-8511 茨城県日立市中成沢町4-12-1
図書館農学部分館	029-888-8531	〒300-0393 茨城県稲敷郡阿見町中央3-21-1
人文社会科学部	029-228-8104 (総務グループ)	〒310-8512 茨城県水戸市文京2-1-1
教育学部	029-228-8205 (総務グループ)	〒310-8512 茨城県水戸市文京2-1-1
教育学部附属幼稚園	029-224-3708	〒310-0011 茨城県水戸市三の丸2-6-8
教育学部附属小学校	029-221-2043	〒310-0056 茨城県水戸市文京1-3-32
教育学部附属中学校	029-221-3379	〒312-0032 茨城県ひたちなか市津田1955
教育学部附属特別支援学校	029-274-6711	
理学部	029-228-8334 (総務グループ)	〒310-8512 茨城県水戸市文京2-1-1
理学部附属宇宙科学教育研究センター	0293-24-9516	〒318-0022 茨城県高萩市石滝627-1
工学部	0294-38-5004 (総務グループ)	〒316-8511 茨城県日立市中成沢町4-12-1
農学部	029-887-1261 (総務グループ)	〒300-0393 茨城県稲敷郡阿見町中央3-21-1
農学部附属国際フィールド農学センター	029-888-8702	〒300-0331 茨城県稲敷郡阿見町阿見4668-1